大学名	東海国立大学機構　名古屋大学 未来社会創造機構・脱炭素社会創造センター

別紙2

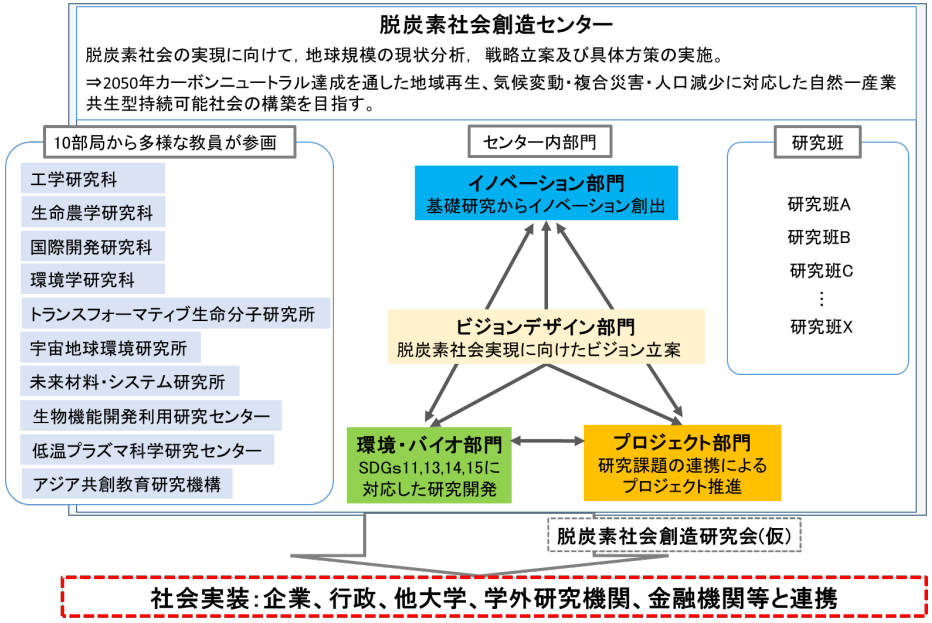
表題	名古屋大学の脱炭素社会構築への多様な取り組み

脱・化石資源依存社会の構築に「総合知」で挑む

近年の気候変動に対応するため、2050年のカーボンニュートラル達成は世界全体の重要な課題となっています。カーボンニュートラル達成のためには、理工系によるハード面の発展だけでなく、人文社会系による法制度・社会認知・人間の行動変容といったソフト面の変革が不可欠です。

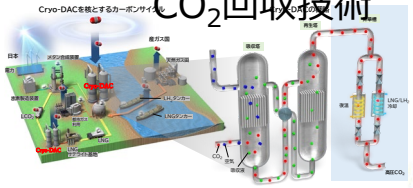
名古屋大学は、理工系研究者と人文社会学系研究者および産官金民が協働し、「**総合知**」でのカーボンニュートラル達成を目指すプラットフォームとして**脱炭素社会創造センター**を本年4月に設立しました。当センターはハード面では、CO_2 回収技術やアンモニア合成技術、熱マネジメント技術、再生可能エネルギー技術、バイオマス関連技術やスマート農業技術等の開発や、森林や海洋、大気、気候や気象の観測及び分析に取り組んでいます。ソフト面では再生可能エネルギー導入に伴う生活環境への影響の分析など、政策や社会制度、経済、歴史・文化面から分析・研究に取り組んでいます。また、これらハード・ソフト両面の研究の融合と産官学金民連携を促進するための体制作りを進めています。

このような活動を通して、2050年のカーボンニュートラルと脱・化石資源（炭素）依存社会の実現はもちろんのこと、大学が持つ「総合知」を広く社会に認識してもらい、産官学金民の連携が進む土壌が醸成されることを期待しています。



研究事例

CO_2回収技術



アンモニア合成触媒

空調の消費エネルギー予測

参考URL
http://www.mirai.nagoya-u.ac.jp/organization/carbon-neutral.html